

老年医学

Gerontology

単位数：2単位

○長井 篤 教授：内科学第三
矢野彰三 准教授：臨床検査医学

1. 科目の教育方針

生活習慣病や変性疾患等による老年期における神経系、内臓系、運動器系等の機能障害の病態生理と予防、治療、高齢者の健康福祉システム等について教授する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 加齢や老化に伴う神経系機能低下および加齢関連疾患による中枢神経障害に基づく神経機能障害の病態について理解する。
- 2) 脳血管障害の成因、病態そして予防法を習得する。
- 3) 加齢に伴う骨量低下や骨格変化およびサルコペニアの病態と転倒骨折によって惹起される諸問題について理解する。
- 4) 長寿のメカニズムと健康寿命延伸に向けた方策について学習する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 認知症をきたす疾患を分類し、その成因と症状について説明できる。
- 2) 脳機能の評価方法を列挙し、その特徴を説明できる。
- 3) 脳血管障害の分類に応じて、その予防法を説明できる。
- 4) 骨折の危険因子を列挙し、骨粗鬆症の予防について説明できる。
- 5) 骨量や骨代謝動態の評価方法を知り、それぞれの特徴を説明できる。
- 6) 健康長寿や幸福感を得るために重要な事柄を説明できる。

3. 教育の方法、進め方

セミナー等を含めたオムニバス形式を基本とする。

講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- ・認知症テキストブック 編集：日本認知症学会
- ・脳卒中治療ガイドライン 2015 編集：日本脳卒中学会

- ・注意と意欲の神経機構 編集：高次脳機能障害学会
- ・骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版：骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会
- ・生活習慣病骨折リスクに関する診療ガイド：日本骨粗鬆症学会・生活習慣病における骨折リスク評価委員会
- ・日本人の食事摂取基準：厚生労働省健康局
- ・CKD ステージ G3b～5 診療ガイドライン 2015：慢性腎不全診療最適化による新規透析導入減少実現のための診療システム構築に関する研究 研究班
- ・慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン：日本透析医学会

6. 教育内容

- 1) 脳血管疾患、骨代謝疾患の頻度と分布を測定する技術を習得させる。
- 2) 脳血管疾患、骨代謝疾患の発生要因を明らかにするための基礎的知識を習得させる。
- 3) 集団を対象とした脳血管疾患、骨代謝疾患の予防対策の立案、実施、評価に必要な知識を習得させる。
- 4) 運動・知覚レベルから高次認知機能までヒトの行動を支える神経機構を理解させ、加齢や老化に伴う機能低下そして各種疾患による中枢神経障害に基づく神経機能障害の病態およびその治療について取得させる。
- 5) 高齢者において、身体機能や栄養状態が生命予後に与える影響とその病態を解明するために必要な知識と技術を習得させる。

回	授業内容	担 当
1	認知症の疫学と疾患分類	長井 篤
2	認知症の薬物療法と非薬物療法	長井 篤
3	認知症の行動心理症状とその対策	長井 篤
4	パーキンソン病類縁疾患の病態と治療	長井 篤
5	脳血管障害の危険因子と一次予防	長井 篤
6	脳血管障害の急性期治療と再発予防	長井 篤
7	高齢者疾患の薬物治療と漢方医学	長井 篤
8	高次脳機能の検査方法と加齢性変化	長井 篤
9	骨粗鬆症の疫学と病態	矢野彰三
10	骨粗鬆症の予防と治療	矢野彰三
11	サルコペニアの病態と予防	矢野彰三
12	メタボリック症候群とロコモティブ症候群	矢野彰三
13	日本人高齢者の食事摂取基準	矢野彰三
14	生活習慣病における骨折リスク	矢野彰三
15	慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常	矢野彰三